

2021 CAFネビュラ展 オープニングセレモニー



■ 概況 ■

2021CAFネビュラ展オープニングセレモニーは、11月7日(日)AM11:30~12:00 埼玉県立近代美術館のCAFネビュラ展の展示会場にて開催されました。例年どおり、当会代表の本田貴侶の挨拶で始まり、つづいて来賓のご挨拶。CAFネビュラ展の前身である「埼玉美術の祭典」の時代から40年近く、本展をご覧頂いておりますアートコーディネーターの松永 康氏

(元埼玉県立近代美術館学芸員)から頂きました。本年のゲスト作家、現代造形、被膜彫刻家の吉江庄藏氏からは、作品づくりの思いなど、興味深いお話をお聞きすることができました。最後に本年、新会員になられた方々の紹介でオープニングセレモニーは終了しました。前年に続く、コロナ禍の中での展覧会開催ということで、来場者が一堂に会するオープニングセレモニー

は、どのような形で行うのが良いかを検討しましたところ、短時間でシンプルな形で行うことになりました。またコロナ対策として、会場内の椅子席も間隔を空け、密を避けるよう配慮し開催しました。このような折に、ご来場、参加くださった皆様により感謝申し上げます。このコロナ禍が終息し、1日でも早く、以前の活動に戻る日が来ることを、願っています。

2021 CAFネビュラ展 関連企画 ワークショップ「しめかざり つくろう」



■ 概況 ■

会期中の日曜日の午後、北浦和公園内の広場でワークショップ「しめかざり つくろう」が開催されました。コロナ禍の中で無事に健やかに過ごせますように、という願いも込めた試みです。催しは二つおこなわれ、ひとつは稲わらに縁起物のいろいろなお飾りを結び付けてオリジナルのしめかざりを作りました。もうひとつは、広場にゴザを敷いて当会員達が稲わらを縛る実演、続いて参加者の皆さんもわらの根元を足でしっかりと押さえて両手を擦り合わせて縛る体験です。作っている時の子どもたちののはつらつとした表情と、また大人たちが真剣に取り組む姿も印象的でした。

日本ではお正月に豊作や健康をもたらす年神様を迎える為の目印になるように、しめかざりを飾るくらしの行事があります。使われる稲わらや装飾にはそれぞれ由来があり意味が込められ、それは文化として今に受け継がれています。参加し体験する、そして何らかの新しい視点を得てアートに親しむ。ワークショップの主人公は参加者一人ひとりです。実際に作ったり家族や友人と話し合ったりして時間を共有しながら様々な経験を通してアートを楽しむことを目的としています。表現や工夫する面白さや難しさを知ることは新しい自分自身を発見する契機になるかもしれません。

コロナ禍にもかかわらずこのように無事に、そして秋晴れの戸外で大いに盛り上がりみせた様子は皆様のご理解と支援があったからこそでしょう。材料の稲を快く分けて下さった農家の方々、事前準備と当日のしめかざり作りを積極的に参画して楽しんで下さった多くの会員の方々に感謝申し上げます。

■ 記録 ■

- 名 称=ワークショップ「しめかざり つくろう」
- 会 期=2021年11月7日(日)13:30~16:00
- 会 場=北浦和公園 疎林広場
- 参加者=200名